

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400690		
法人名	社会福祉法人 壽光会		
事業所名	グループホーム湖水苑(のぞみ)		
所在地	島根県出雲市湖陵町差海318-1		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和5年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な神西湖の畔に居を構え、豊かな湖畔の四季を感じながら穏やかな毎日を過ごすことができます。春には桜が咲き、夏は花火が夜空に舞い、秋は名月に照らされ、冬には多くの渡り鳥たちで賑わいます。苑庭では季節の花々が咲き乱れ、畑での作業、外出などを通じて四季をしっかりと感じて頂けるように努めています。また、近隣にスーパーマーケット、コンビニエンスストア、コミュニティーセンター、市役所支所、農協、医療機関等もあり、地域資源に恵まれています。海岸清掃や湖岸清掃などのボランティア活動等への積極的な参加を通して、地域に開かれた事業所作りを目指して活動しています。併設事業所のサービスも多様であり、経験豊富なスタッフが揃っていますので軽度から重度までのご利用者への幅広い対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

湖畔の広い敷地に特老を含めて3つのユニットある。建物全部が平屋で、庭も広く季節の花木が目を楽しませてくれる。恵まれた環境でゆったりと穏やかな雰囲気が心地良い。平成18年に2ユニット、令和3年にもう1ユニットが開所している。コロナ禍での開所の為か職員確保が難しく、業務内容や勤務形態を工夫しながら営業を続けている。昨年末には新型コロナウイルスの感染者が出たが、保健所の指導の下、職員のチームワークで乗り切っている。開所から年数も経過し、地域行事の際には施設開放をしたり、ボランティア交流も盛んに行われていたがほとんどのものが途絶えている中、専門学校の実習生の受け入れや地元の高校での認知症研修の講師など、福祉の人材育成に積極的に関わっている。法人には複数のサービスが確保されており、家族の安心に繋がっていることもあり、できるだけ早く職員体制が整うことで安定した運営に繋がれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも閲覧できる様、苑内に掲示しカンファレンス等で理念の確認を行い理解することで実践に取り組んでいる	平成18年の開所時に法人の理念に沿って作成されたグループホームの理念があり、現在も引き継いでいる。新規採用職員には法人全体の研修の中で、中途採用の職員には面談の際に理念に関する話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり地域の方を苑内にお招きすることは自粛している。職員は海岸清掃や湖岸清掃など地域のボランティア活動へ積極的に参加している	近くに支所やコミュニティセンターがあり、夏の花火大会にはホールを開放したり、保育園児の訪問や、神楽、楽器演奏のボランティアなど、多くの交流の機会があったがコロナ禍でほとんどが中止状態。清掃活動のみ職員が参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症への理解を深めてもらうため、地域の介護福祉学科へ訪問し、認知症サポーター研修を開催した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方からのご意見を活かし日々のサービスの向上に努めている	コロナ禍で文書開催になっている。法人の第三者委員や市役所に、利用者の身体状況や生活状況、行事の様子は写真入りで、研修やヒヤリハット等含めて報告を行い意見を得ている。	できるだけ多くの関係者の参加が得られ幅広い意見がサービス向上に繋がるよう検討していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換以外に、ご利用者のケアにおける相談や助言を求めたい際には都度相談している	運営推進会議では毎回意見を得たり、運営に関して相談を持ちかけたり、介護保険の申請時や認定調査での関わりもある。生活保護担当課からは年1回訪問があり、情報を共有しており緊急時の対応等を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度開催している身体拘束廃止委員会のほか、カンファレンスの中で身体拘束におけるグレーゾーンに関しても意見を出し合うようにしている	自宅が近く帰宅願望が強い方がいるが、家まで職員が付き添い思いが叶うよう対応している。入所からの日が浅く落ち着かない場合も制止することなく拘束のないケアを目指している。委員会では身近な事例やスピーチロックについても検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中でも虐待に関する内容を議題に挙げ権利擁護に関しても会議やカンファレンスの中で理解を深める様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の事例をとおしてカンファレンス等で制度についての理解を深める様努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、退去になる際の決まりであったり利用料金など理解をして頂けているか確認しながら納得して頂ける様努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約締結の際に要望を伝えられる窓口の説明をさせてもらい、ご意見があれば運営に反映させている。また面会時や電話連絡時などにも要望等を伺うようにしている	法人全体の便りを3か月に1回作成し家族関係者、行政、地域にも広く配布している。ライン登録している家族には行事の写真を送ったり、担当が年賀状や暑中見舞いのはがきを出したりして意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員との面会を実施し職員の意見や提案を聞き反映させる機会を設けている	管理者は年配の職員が多いこともあり、特に体の負担には配慮するようにしており、勤務表に反映させたり業務の見直しに繋げるようにしている。職員のモチベーション維持の為に半年に1回は面談の機会を持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成に際し個々の希望休暇に配慮し、また定期的に有給休暇消化が出来る様勤務調整を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の機会はコロナ禍で自粛傾向にあるが、オンライン研修等を利用し職員の自己啓発に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時には積極的に他事業所との交流を行い他事業所での取り組みやケアについての意見交流が出来る様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人にケアの方針や納得して頂いた上で入所して頂ける様、ご家族等の協力も得ながらご本人へ説明させていただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に普段の様子をお伝えしている。サービス提供がご本人にとってどのような状況にあるのかをメールや面会時にお伝えし意見を伺うように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階でご本人やご家族にとっての課題を確認し見極めている。また、あらかじめ今後必要になってくるかもしれないサービス内容の説明も含め説明を行いご本人やご家族に理解して頂ける様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場や、相手の気持ちを一番に考えご本人に寄り添った関係が構築できる様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの相談事への対応や、日常生活の様子や体調面の報告を行いながら関係作りに取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の気持ちを尊重し寄り添えるような関わりをしながらご本人にとっての馴染みの関係が途切れない様に努めている	コロナ禍の為面会は予約で短時間、ガラス越しになっていることもあり、友人知人の面会は限られているが、以前からの知り合いが立ち寄る場合もある。	いろいろな方法で馴染みの人や場所との関係が続くよう検討していただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の能力や出身地等にも配慮し、お互いに交流が持てる様職員が仲介しながらより良い関係が構築できる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談援助など行いながら、退去後の生活が円滑に行える様取り組んでいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方については、ご本人の生活歴やご家族からご本人の価値観等の聞き取りを行い気持ちを汲み取るよう配慮している	本人とは、普段の会話の中で思いの把握に努めているが、家族からは健康に過ごしてほしいとの意見が多い為、計画に反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前調査の段階で、これまでの生活歴や習慣、生活環境を聞き取り、暮らしの継続が出来る様取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なバイタルチェックや入浴時の皮膚トラブル有無の確認、ADLの変化に気づいた際の記録を行い、カンファレンス等でも職員間で情報共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの意向の聞き取りを行いプランに反映している。また身体機能等に変化があった際にはカンファレンスにて状態にあったケアを検討しプランに反映している	モニタリングを定期的に記入し6ヶ月ごとにプランの見直しを行っている。コロナ禍の為本人や家族を交えての担当者会議はできていないが、電話や短時間の面会時に意見を聞いてプランを作成し理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供したサービス内容等をケース記録へ記録し、検討が必要なことがあれば定期的なカンファレンスで検討し、合わせてプランの更新の際に活かすよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時や入退去時などには、必要に応じた支援を行いご本人やご家族の負担が軽減できる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり地域の行事や、買い物は制限させていただいている現状がある。感染状況等を加味し制限の緩和を検討中である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に体調不良や特変時の場合の苑の対応をご説明し同意を得ている。特変時等の受診に関しては、主治医の判断を第一とさせてもらっている。受診に際して職員が通院支援を行う場合もある	家族対応で今までのかかりつけ医を続けることも、施設の協力医に変更することもできるようになっているが、定期の往診が可能で緊急時にも指示が得られる協力医に変更する方が殆ど。家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師の配置は無いが、同敷地内の事業所には看護師の配置がある為、体調に関しての相談や助言を求める事が出来る体制にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関やご家族と連絡を取り合い、状況を把握し円滑な退院が出来る様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入居時に苑として出来る事、ご本人やご家族の意向を確認し、担当者会議等で都度意向の確認するようにしている	平均介護度は比較的軽いが、介護度4, 5と重度な方がおり、ここでの看取りを希望する声がある。以前に看取りの経験もあり本人、家族の希望があれば取り組んでいく意向を持っている。介護度3になれば特老入所について情報提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時の対応マニュアルを策定し円滑に医療機関に引き継ぐことが出来る様にしている。また年に2回救急救命法の研修を全職員対象で実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は夜間想定)の避難訓練を実施し、災害時等に円滑な避難誘導が出来る様取り組んでいる	隣接する特老と一緒に定期的に訓練を行っているが、限られた人数での夜間の対応を課題としており、年度内の訓練では消防の指導を受ける予定としている。水や主食等備蓄は用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の立ち場にあった声掛けを心掛けています。また抱える疾患や障害等を十分に理解するとともに、対象者に合った声かけに努めている	車いすのトイレ使用者で開け閉めがしにくい方がいるが、開けたままの使用にならないよう気を付けている。コロナ禍で外部の目がなく、ケアが自己流になることがあるので、ケアの基本として接遇研修で取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を大切に確認しながらケアを行い自己決定をして頂けるような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活歴や性格、生活の中での習慣を大切にペースを大切にケアの提供に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の習慣がある方には購入等の支援をご家族へ依頼することもある。起床時や共有スペースへ出掛けられる時などは注意を払う様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態もそれぞれの咀嚼や嚥下機能に合わせた形態で提供している。食事摂取量が少ない方については、ご本人の食べやすい栄養補助食品の提供を行うなどして支援している	隣接する特老で調理したものが届くので、調理に関わる場面は少なく、テーブルや食器を拭く手伝いをされている。おやつを作ったり、シイタケ栽培や梅を漬けたり、懐かしい作業に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重に応じた水分摂取量が確保できる様、個々の嗜好を把握した上で水分の提供を行っている。疾患があり水分制限等ある方については主治医と連携し水分摂取量の指示をもらい提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要な方については、毎食後の声掛けや見守り、一部介助等を行い口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存能力や下肢筋力の状態等に配慮しながら排泄用品の選定を行っている。出来るだけトイレで排泄が行えるよう定時誘導を行っている	オムツの方は無く入所時から紙パンツにパットの使用者が殆ど。失禁や間に合わない方もあるが、トイレで排泄できるよう時間を見て声がけしたり、個々に合わせて必要な介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操等を日課として行い体を動かして頂くことで便秘予防を行っている。また水分摂取量が十分に摂って頂ける様、ご本人の嗜好に合わせた飲み物の提供を行うなど工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴サービスを提供する為、基本的な入浴予定表は作成していますが、入浴時間の要望等あれば予定調整を行いご希望に沿った入浴サービスが提供できるように努めています	少し大きめの家庭浴槽だがリフト機能もあり、重度になっても対応可能だが現在利用者はいない。浴槽に入れない方も希望でシャワー浴対応している。午前午後とも入浴でき、同性介助も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や、疾患等に配慮し無理のない様休息をとって頂いたり、休息の声掛けをさせていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の処方薬情報を確認しながら目的や副作用について理解するよう努めている。また服薬に関してはチェック表を基に確認を行い、変わった事があれば主治医の報告相談するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の担当職員を中心として、個々の嗜好や得意な事や好きな事に配慮しながら日課等の提供を行い役割を持った生活を送って頂けるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	モニタリングや日常の中の会話の中で本人の希望を把握し、個別の要望があれば出来るだけ希望に添える様対応できる範囲で外出支援も行っている。	コロナ禍の為、外出の機会は大幅に減っており、特に人の多い場所はさけている。小人数でドライブに行ったり、車中から紅葉を眺めたりして気分転換に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が、自分の財布で金銭を管理しておられ、必要物品の購入代行を職員に頼まれる事があり対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、適宜ご家族との電話連絡や手紙の発送代行を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感をとり入れる採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所ごとの清掃予定表に基づいて毎日清掃を行い、利用者が気持ちよく生活して頂けるように取り組んでいる。また季節にあった掲示物や空調管理を行い居心地の良い空間作りに努めている	平屋で3つのユニットが長い廊下で繋がっている。湖のほとりにあり景色が良く自然豊かで静か。木目調で和の雰囲気があり落ち着いた空間がある。庭が広く窓からは、梅や桜の他にも多くの木々や花が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳スペースなどで、ゆったりと過ごすことが出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入所に際して、馴染みの物や使い慣れたものを積極的に持ち込んで頂く様お願いしている	床頭台やタンスは用意されており、自宅からは座椅子や洋服用のラック、テレビ等が持ちこまれている。家族写真を眺めながら楽しむ方が多い。夫婦2人で同じ部屋を希望する方には片方の部屋にベッドを2つ置いて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体機能に合った環境設定を行い、残存機能を活かせ、出来るだけ自立した生活が送って頂ける様取り組んでいる		